

# ジダン明かした侮辱発言

サッカーW杯決勝のイタリア戦でマテラツィイへ頭突きをして退場処分を受けたフランス代表のMFジダン(34)は12日、フランスのテレビ局のインタビューで「母や姉に対する侮辱があったため」と理由を語った。写真、ロイター。しかし、具体的な発言内容までは明らかにしなかった。国際サッカー連盟(FIFA)はマテラツィイに対しての調査に入ったが、侮辱発言をどう処罰するかは、難しい面もある。

社会面参照

ジダンがテレビ局で語った要旨は次の通り。

(マテラツィイの発言内容は)とても個人的なことだった。母と姉を傷つけるひどい言葉を繰り返された。1度や2度ならともかく、3度となると我慢できなかった。

言葉はしばしば(暴力)行為よりきつい。私を最も深く傷つける言葉だった。(どんな言葉かは)とても口には出せない。

もちろんやるべき行為ではない。2億、3億人

## インタビュー要旨

が見守る中での私の行為は許されないもので、特にテレビを見ていた子供たちに謝りたい。(だが、頭突きについては)後悔はしていない。後悔すればマテラツィイの言葉を認めることになるから。

挑発がなければ暴力行為も起こりえなかった。挑発した側も罰せられるべきだ。W杯決勝の、しかもサッカー人生の終了10分前に面白半分にあんなことをすると思いませんか。

## 証明・処罰は難問 FIFA

サッカーではDFらが相手を挑発するような言葉を発したり、いらいらさせるため激しくチャージしたりすることはめずらしくない。「挑発するのもサッカーのうち」という考え方もある。

挑発に乗って報復し、退場になるケースも多い。98年フランス大会では、イングランドのベッカムがアルゼンチンのシメオネの挑発に乗って足をけった。ベッカムは退場となり、イングランドも敗れた。

現役時代に一度も警告を受けていない元イングランド代表のリネカー氏(元名古屋)は「サッカーでは、相手のDFに汚

いプレーをされたり、挑発されたりすることは多い。しかし、それに乗ったら、自分のプレーができなくなる」と話す。

FIFAの規約では、身ぶりや発言で侮辱した場合最低2試合、宗教を含む差別的な中傷があれば最低5試合の出場停止処分を科すとしている。

ジダンは「挑発した選手も処罰を受けるべきだ」と主張している。しかし、主審への侮辱ではなく、選手への侮辱発言をばつり聞き取るのは難しく、相手が否定すれば証明は難しい。

FIFA理事の小倉純二・日本協会副会長は13

日、「FIFA規律委員会は2人を呼んで事情聴取させるを得ないのではないか。そこまでやる義務がある」との見解を示した。

ジダンは現役を退くため、出場停止ではなく罰金などの処分があり得る。マテラツィイも事情聴取に基づいて処分が科される可能性がある。

「大成功と言われた大会の最後に暴力的な行為があったことは恥ずかしい。ただ、なぜジダンのような選手があんなことをしたのか、理由があるはず。FIFAも軽々しく考えていない」と小倉理事は話した。

北沢豪さん(元日本代表MF)の話 ジダンの行為はやめてはいけないことだが、本当にそのような発言があったのなら、その発言も許せない。侮辱は言葉の暴力。私も現役時代、体のことなど

## 追及してほしい

いやなことを言われ、挑発されたことがある。言葉は一瞬にして消えてしまうので、何を言ったかを証明するのは難しいが、FIFAは今回の件を、言葉の暴力がなくなるきっかけにしてほしい。